

第 2 2 回「送配電コンプライアンス委員会」議事要旨

1. 日 時

2025 年 4 月 16 日（水）13:40～15:10

2. 委 員

一般送配電事業者（10 社）の社長、一般社団法人送配電網協議会事務局長、外部より招聘した弁護士および公認会計士（各 1 名）

3. 議事要旨

（1）委員会規程の制定および委員長の選任

＜討議目的＞

送配電網協議会の一般社団法人化に伴い、従来の送配電コンプライアンス委員会規約を改め、送配電コンプライアンス委員会規程として制定すること、本委員会規程第 7 条 2 項に基づき、本委員会委員長には一般社団法人送配電網協議会会長に就任いただくについて議論。

＜討議内容＞

- ・ 本委員会規程を制定すること、本委員会委員長に一般社団法人送配電網協議会会長を選任することを全会一致で確認した。

（2）これまでの送配電コンプライアンス委員会での指摘事項

＜討議目的＞

本委員会の第 15 回以降に頂いた指摘事項について、「既に検討に反映したもの」、「業界大で検討することで全体底上げにつながるもの」および「各社実態に応じて各社で検討していくべきもの」への分類結果（前回までの整理方針と同様）について議論。

＜討議内容＞

- ・ EUC（End-User Computing）およびその他ツールの管理方法を引き続き協議会大で検討すること、データ提供に関する内容は行動指針に反映すること、現場に刺さるようなビジュアル等を用いた説明資料については、10 社共通の説明資料の作成要否含めて検討することなどを確認した。

(3) 各社の第三線における行為規制に関する取組み状況

<討議目的>

各社の第三線における行為規制に関する取組み状況ならびに外部からのチェック・監査状況について議論。

<討議内容>

- ・ これまで第一線・第二線による内部統制面にフォーカスして検討してきたが、今までの取組みが形骸化しないようにしていく観点から、各社の第三線（内部監査）において、大所高所から行為規制に関するコンプライアンスシステムが組織全体として機能しているかを見ていくことが重要であることを共有した。
- ・ 第三線による監査をより有効的かつ実行的なものとしていく方法として、第一線・第二線から独立した立場であることを前提としつつ、現場の実務や実態を把握し問題意識をもった上で、リスクベースで、第一線・第二線に対してアプローチしていくことが重要であることを確認した。また、第三線が実施する監査の有効性を高めていくにあたり、各社の第三線間で情報交換や評価・助言を行うことが有効な手段の1つであるとの意見があり、今後、各社の第三線間における取組みについて検討していくこととした。

(4) 行動指針に係る検討状況

<討議目的>

本委員会第21回のご指摘内容および2025年4月1日以降の状況変化を踏まえた行動指針改定版の修正案について議論。

<討議内容>

- ・ データ提供に関するルールについて、提供データの定義を明確化し、わかりやすさの観点から情報を提出、開示および公表する事例を付記して行動指針を改定することを確認した。一方、本ルールの適用範囲について、一般送配電事業者のどのような業務を対象とするのか引き続き検討していくこととした。
- ・ EUC管理について、その定義や想定リスク・管理の具体例等の実態を把握し、監視等委モニタリングにおける指摘内容や評価を踏まえた検討後に行動指針改定版を改めて議論することを確認した。EUC管理に関する論点としては、各社のEUC稼働環境が異なることから想定されるリスクとリスクへの対策を整理すること、そのリスクと照らし合わせて非公開情報の管理の用に供するシステムで定められている要件への対策を整理していくことを確認した。

(5) 情報漏えい以外の行為規制に関する検討

<討議目的>

情報管理に関する行為規制に限らず、行為規制遵守にあたり現在各社が課題と考えている論点を抽出し、「具体的対応策を検討するもの」、「各社の取り組み状況を共有するもの」および「現時点で対応が不要なもの」に分類し、今後の対応について議論。

<討議内容>

- ・ 「具体的対応策を検討するもの」とした「必要のない情報の符号化またはそれ以外の手法を漏れなく実施する仕組み」に関して、情報の連続性や符号の取り方も多岐に渡ることから、判断基準を共通ルールとするのではなく、具体的な対応策は各社検討とすること、ならびに「各社の取り組み状況を共有するもの」については、共有した結果、各社とも現状の取組みにより問題なく対応できていることを確認した。
- ・ 今後も形骸化させないよう様々な角度から継続して検討いくことが大事であることを確認するとともに、各社の業務プロセスにおいて問題提起があれば、業界全体の底上げにつながる点もあるため、課題提起があれば継続して議論することを確認した。

以 上